

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■平成28年度第1回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・水防活動支援技術に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

○水防工法の効果の技術的検証

出水時の施設の保護の観点から、侵食対策、浸透対策、越水対策に係わる既存の水防工法の効果について、既往の研究事例、シミュレーションや現場での事例から確認・評価する。この評価結果を踏まえ、想定する河川水位条件に対して所要の効果を発揮するための各工法の出来形を明確にした上で、水防量に関わる指標の作成等を行う。

○水防活動の実施過程の精緻化

水防活動の効率化については、（昼・夜、水位上昇速度等）種々の条件を想定した上で、危険箇所の発見、水防資材の置き場からの搬入、搬入に当たっての機材の調達・利用等の水防活動の一連の過程を対象としたタイムライン・シナリオを作成し、各過程での活動量の指標化、ボトルネック過程の発見、解消策・合理化方策について検討する。

○水防活動の意義の明確化による水防災意識社会への変革

水防活動の効果、地域防災における意義を明確化することで、あらためて社会システムとしての水防のプレゼンスの向上を目指す。なお、本課題においては出水時の水防活動に特化した研究を行うが、他の洪水対策と連携・統合化されることにより、効果的な水害対策に寄与したいと考えている。

■平成28年度第2回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・避難所における被災者の健康と安全確保のための設備等改修技術の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・熊本県をはじめとし、近年大規模な災害を受けた自治体との意見交換を綿密に行うことで、現場のニーズに即応できる技術開発を行う。
- ・国立医薬品食品衛生研究所等との連携を通じて、医療や健康分野における感染症予防等の技術、建築設備機器メーカーにおける被災時の対応技術など、それぞれに開発が進んでいる技術を集約する。
- ・住環境を考慮した避難所の開設・運営が容易となるよう、これらの技術の適切な連携手法について、これまでの事例に踏まえ、運営する側、利用する側、双方の観点からの検討を行う。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めてまいりたい。

・ **建築物のエネルギー消費性能の向上を目指したファサード設計法に関する研究（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、改修による省エネルギー効果の観点からも検討を行うことにより、新築だけでなく既存建築物の改修にも対応可能なファサードのエネルギー消費性能評価法の開発を進めてまいりたい。また、ファサード設計法の開発においては、維持管理・耐震性・火災安全性などの省エネルギー以外の事項についても留意事項として盛り込むべく、各分野の専門家等と意見交換しながら、研究を進めてまいりたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めてまいりたい。

・ **多様化する生活支援機能を踏まえた都市構造の分析・評価技術の開発（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・ 都市構造が拡散し生活サービスレベルが低下してしまったような事例も含めて幅広く事例調査を行い、都市構造と生活支援機能との関連性や相互影響について分かりやすく整理する。
- ・ 評価指標の設定にあたっては、都市経営（インフラマネジメント等）のコスト低減の観点だけでなく、総合的な生活の質の維持・向上の観点にも留意する。生活サービス向上に関する先進事例の分析を行いつつ、介護サービスの受けやすさや病院への通いやすさ等についても検討するなど、健康医療分野等の他分野とも連携する。
- ・ コンパクト化を進めるタイムスパンやプロセスを考慮した段階的な視点も含めて、都市構造の分析・評価技術について検討する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めてまいりたい。

・ **地震火災時の通行可能性診断技術の開発（事前評価）**

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・ 地震時に倒壊した老朽建物による延焼遮断効果の喪失の可能性を考慮して、火災外力や遮熱効果等の検討を行う。
- ・ 自治体・関連機関と密接に連携を図って現場ニーズを把握しつつ、現場での実用性の面からの検討を行う。
- ・ 危険度が高く、データ整備が進んでいない都市でも活用出来るよう、汎用的なデータ構築手法の検討とケーススタディを実施する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めてまいりたい。

■平成 28 年度第 3 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、地震直後の応急復旧方法の判断基準のみならず、応急復旧後から本格復旧までの間に予想される破損形態を考慮し、応急復旧箇所のモニタリング項目、モニタリング方法、閾値についても、可能な限り明確となるよう進めることとしたい。また、研究の過程で実施する空港管理者に対するヒアリングにおいて、研究成果の効果的な活用方策についても意見交換を行い、研究を進めてまいりたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めてまいりたい。

